

第2回四條畷市地域福祉計画策定専門部会 議事録

日 時：令和8年7月10日（金）10：00～

場 所：四條畷市役所東別館 201会議室

出席者：小寺部会長、小林副部会長、堂棺委員、岡田委員、井上委員、奥田委員、
山本委員、横川委員、阿部委員、村井委員

事務局：福祉政策課長、福祉政策課主査、福祉政策課職員

【事務局】

四條畷市地域福祉計画策定専門部会を始めさせていただきます。本日の司会を務めさせていただきます。開催に先立ちまして、福祉政策課長より皆様にご挨拶を申し上げます。

（ 福祉政策課長挨拶 ）

本日は委員10名全員が出席でございます。四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条第2項の規定により、過半数のご出席をいただいておりますので、会議は成立いたしますことを報告いたします。

続きまして、前回ご欠席の方がおられましたので、改めて専門部会委員の皆様をご紹介します。

学識経験を有する者として小寺鐵也部会長でございます。福祉サービスを利用する者として堂棺知絵理委員でございます。同じく岡田健雄委員でございます。コミュニティソーシャルワーカーの職にある者として井上博詞委員でございます。同じく奥田優希委員でございます。四條畷市民生委員児童委員協議会に属する者として阿部ゆき江委員でございます。四條畷市ボランティア連絡会に属する者として山本啓一郎委員でございます。四條畷市社会福祉協議会地区福祉委員に属する者として小林由美子副部会長でございます。社会福祉協議会に属する者として村井志穂委員でございます。社会福祉を目的とする事業を営営する者として横川浩一委員でございます。以上10名の皆様でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

では本題に入る前に資料の確認をさせていただきます。前回までの資料はお持ちでしょうか。

それでは、これ以降の議事の進行につきましては、四條畷市福祉計画検討委員会規則第3条に基づき、部会長にお願いいたします。

【部会長】

では、議事を進めさせていただきます。

まず、次第3、本専門部会の公開・非公開について、決める必要がございます。事務局から、市の会議公開制度についての説明をお願いいたします。

【事務局】

本専門部会の公開・非公開について説明させていただきます。本市では、「審議会等の会議の公開に関する指針」により、法律や条例のみならず要綱等による会議体についても、その審議状況を市民に明らかにするため、原則として公開するものとしております。よって、本専門部会の会議についても公開とし、ご意見や議事内

容等についても、ホームページ等において公開したいと考えております。

【部会長】

いかがでしょうか。ただ今の説明のとおり本専門部会を公開とすることに意義はないでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【部会長】

では、公開いたします。

それでは、次第4「第5期四條畷市地域福祉計画（見直し）素案について意見交換」に移りたいと思います。

まず、事務局より「①前回ヒアリングのまとめ」について、報告をお願いします。

【事務局】

それでは次第4の「①前回ヒアリングのまとめ」について申し上げます。本日机上配布しました「6 ヒアリング結果（第5期中間計画見直し）と書かれた資料の50、51ページをご覧ください。

前回の会議において、委員の皆さまから、地域福祉に係る様々なご意見を伺いました。いただいたご意見を、第5期計画の基本方針ごとにまとめたものがこの資料となります。内容についてご確認くださいませようお願いします。

【部会長】

皆さん内容についてご確認ください。ここまででご意見やご質問はありませんでしょうか。

それでは、「②課題の抽出」について、説明をお願いします。

【事務局】

「②課題の抽出」についてご説明申し上げます。52、53ページの表をご覧ください。この表の左の列には、皆さまからいただいたご意見の要約、中央の列は、ご意見に対する課題となります。右側の列には、それぞれの課題を解決するための中間見直しでの取組及び、福祉計画に定めた基本方針1～8のいずれに該当するかを記しております。

いただいたご意見の中で、特に重要だと考えられる課題を抽出しましたのでご説明します。

意見の要約の一つ目にある「誰に相談したらよいかわからない、わからないので相談をしない」という意見に対する課題として、「支援が必要な人に情報が届いていない現状があるため、より届く情報発信と相談窓口の周知」が考えられます。

また、「悩んでいる人がつながるところがあり、相談しやすかったらよい」という意見は「相談しやすい環境の整備や、顔の見える関係づくり」が課題として考えられます。

「8050問題や世帯全体への支援の必要性」や、「相談支援における制度優先の弊害、制度のはざまを埋める支援や資源が必要」というご意見は、「世帯全体や複合課題を抱える世帯への支援の必要性」が課題であると考えられます。

最後に、「男性をひきこもりにさせない取組」や、「福祉人材をどう確保していくか」というご意見については、「つながりを支える人材の確保・育成」が課題として考えられます。

抽出したこれらの課題を分析すると、そのすべてにおいて、「つながりの欠如」が根本原因となっていると考えられます。

「つながり」は、本計画の基本理念である「みんなの力で地域からつくる、暖かみのあるまち」とも共通する、すべての取組みの基盤となるものです。

皆さまからいただいたご意見を踏まえると、今回の中間見直しに際して、改めてこの「つながりづくり」について、検討を行うことが必要だと考えました。

つきましては、今回の会議において「つながりづくり」をテーマとして皆様にご意見をいただき、計画の中間見直し案に盛り込めるか検討したいと考えております。事務局からは以上です。

【部会長】

只今事務局から提案がありましたが、本日は「つながりづくり」をテーマとして、皆様からご意見やご議論をいただくということでよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【部会長】

それでは、「③課題の検討」について、説明をお願いします。

【事務局】

「③課題の検討」について説明します。「つながりの欠如」が課題になっていることから「つながりづくり」をテーマとしてご意見をいただくにあたり、検討の枠組みを設けました。今から資料をお配り致します。

（資料を配布）

【事務局】

「つながりづくり」はすべての取組みの基盤となる大切なものですが、ともすると曖昧になりかねません。そこで、「つながりづくり」の要素を、先ほど抽出した4つの課題に基いて分類しました。それぞれについて「地域・住民ができること」、「行政に期待すること」についてご検討をいただきたく思います。

皆さまには、それぞれの項目についてお考えいただき、お配りした用紙にご記入いただきたいと思います。そののち、お一人ずつ発表をいただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

（各委員記入）

【部会長】

時間になりました。ご記入いただけましたでしょうか。それではお一人ずつ発表をいただきたく思います。

【委員】

情報発信とその窓口の周知というところで、子育て世代はスマホをすごく使いますので、市の情報を得る時には広報誌も見ますが、やっぱり皆 SNS やアプリを活用して、各施設の予約とかもするので、そういうのが第1子を産んだ13年前に比べても随分発達してきてるなと思う。そういうものを私たちの世代はどんどん活用するので、整備していただきたいというのが思うところです。

ただ、四條畷は実家がこちらで娘息子もこの辺で住んでという方がとても多いので、高齢の父母世代ともよく接する機会もあるんですけど、やっぱり苦手だと。なので窓口を完全に減らすとかそういうのはこの地区には合っていないと思っていて、今までどおりとアプリなどを併用してやっていけるような相談の窓口があるのもいいなと思いました。

3番の複合課題を抱える世帯の視点は、ずっと今まで言っておられると思いますが、課題を抱え込まずに連携して対応していくことを進めていただきたい。

このことはここだから、というのではなく、この人のこの家の問題はみんなで複合して考えていきましょうねということを進めていただけたらスムーズなのかなと思いました。

つながりを支える人材の確保と育成では、短時間または空き時間を活用して福祉に関われるようにできたら関わりやすいかと思います。例えば、タイミーみたいに1回登録したら、自分の空いてる時間でこの施設に2時間お手伝いに行けますよみたいな。

私で言うと、出産前はがつつり仕事していたんですけど、今障がいのある子を抱えていろいろ学校と連携が色々やっていると、決まった日で働くのが正直とても厳しいんです。

今週のこの日ならいけるとか分かるのが2～3日前とかなので、事前に登録してポンと入れるのであれば全然いけると思うんですけど。そういうふうに活用とかできないものかな。

あと、高齢の方が、それこそ人材として小学校とかに来てもらえると、子どもたちはとっても喜びます。旗当番のおじさんと忍ヶ丘小学校はすごく仲良くさせてもらってて、毎日声かけてもらって、とってもいい対応をされていると思うので、そういうことにしっかりお金を支払ってもらえれば。高齢の方も人材として、2～3時間来てもらえるような形なら、もっと動けるところがあるんじゃないかと思いました。

【委員】

私はるうてるホームにいます。市の広報誌はあるんですけど、皆見ないんですよ。何故かという目が悪い、見ても仕方がないとかそういう感じで。

2か月に一度、50人くらいの利用者さんが集まりまして、たこ焼きパーティーとか、餃子作りとかやってるんです。10人ずつのグループで一緒になってるんですけど、他のグループの方も来られて顔見知りができます。そういう機会を施設がやってくれたらいいんですけども、施設は「私たちはそういうことはできません」と言うので、こちらが提案して向こうに材料を買ってもらい、経費は出すんですけども、そうやって楽しんでいます。

それと5年から10年前に朝、四條畷駅の掃除に行ってたんです。10人から20人ぐらいで、朝5時半か6時半くらい。朝早く出勤される方に挨拶したら、向こ

うから逆に「ありがとうございました」と言われるんですね。何も貰ってもないんですけどただ気持ちいい。

片づける人は片づける、散らかす人はそのまま。やっぱり生まれてきた性格ですかね。みんなで地域をきれいにする。自分の家や部屋をきれいにするということが一番いいかなと。歳がいつてるので自分にできることはそれぐらいしかできないんですけども。

【委員】

つながりづくりというのは、最近個人としては言わないようにしています。「つながり」というのがつながりやすい人ばかりのつながりになることを懸念していて、そこから弱い立場の人は除外されるケースが多くて、まち全体として受け入れる体制が必要かと思います。具体的にと言われると、非常に難しいんですが。

やはり孤立してしまうところが難しいというか、相談窓口にも一度は相談に来ているケースが8割くらいある。となるとその対応した人の質で変わってしまうのはどうしたらいいのかと思うが、研修していくしかないと思う。

計画に限らず、考え方が個人モデルになってしまってるのが非常に気になる場所です。本人がやったことで問題が生じているという考え方ですが、背景を見ると、どこかで繋がるチャンスがあったかも知れないが、環境が整わずにできていなかった部分が非常に多いと思う。考え方を変えていくべきだと思っています。

【委員】

情報発信と相談窓口の周知について、私はこういう仕事をしているので、地元でも旅行先でも掲示板やチラシを見ようと気にかけてますが、友達や周りの人は広報も見ないとか、地区の回覧も「一部取ってください」と書かれていても全然取られていないことが見受けられます。紙だけでは見てくれないし、回覧もハンコを押すだけで回されることもある。忙しい世代になるほど見ていないというのはあります。

私の住んでいる地域は高齢の方ばかりですが、高齢の方もハンコを押して回してるだけということを感じるのも、もっと皆さんが見たいな、気になるなという情報発信はすごく必要だと思います。

SNSは広告や他のやつを見てると流れてくることがあるので、そのようなちょっとしたきっかけで見てもらえるような情報発信がすごく必要と感じました。

顔が見える関係づくりについて、ご近所の方と挨拶しないと言われる時代ですが、例えばゴミ捨てで近所の方とすれ違った時に声をかけるだけでも全然違うと感じます。

地域活動への参加は働いている世代には難しいと思いますが、働いてる世代とか学生さんとか、育児介護されてる方でも、本当に少しの時間でも関わってみたいとか参加したいと思ってもらえるような仕組みづくりが必要だと思います。例えば自治会活動も、平日の夜や昼間に会議するから来てくださるではなく、夜やるけど来れなかったら Zoom 配信とかの工夫も必要じゃないかと思っています。

【委員】

民生委員という立場だと、生まれてから亡くなるまでの方を対象に活動していますが、つながりづくりというのは、これといった1つには決められない。その年代や家庭状況によって繋がる方法は1つではないんじゃないかと思っています。必要

とされている繋がる方法を、地域の皆さんが作られるのが一番良いと思っています。

情報発信とか相談窓口は、最初におっしゃっていたように、紙ベースと SNS の情報発信になると、周知が二手に分かれて情報としてもらえるのかなと思います。

複合課題を抱える世帯への支援に立場上関わることが多いです。

この方たちは、どこに相談に行ったらいいか分からないとおっしゃることが多いですが、方法が分からないのではなくて、この方たちから見たら情報が多すぎるんですね。市役所なんか社協なのか包括なのか。ここに行ったら全てが分かるというところが四條畷市にはないのかな。他の地域もそうだと思いますが。

悩んでいる方というのは、多くの情報が頭に入ることはないと思います。なので、相談に行ったときに、すべての連携が取れていて、その先に繋がるのが大切だと思います。

この方が地域の方と繋がるのではなくて、行政と繋がる。繋がるのはあくまでもその地域の方同士で繋がるとか、関係機関とだけ繋がるという認識ではなくて、その方に合った繋がる方法を個別に考えてる必要があると思っています。

4 番のつながりを支える人材確保というのは、大きな問題だと思います。

民生委員でも欠員や後継者が出ないという中で、どうしていくのかというのは、それぞれの組織で考えられていることだと思うのですが、ここはちょっと基本に戻って、会話挨拶をする、横の方とちょっと話し合うということが大事なかなと。

民生委員をしていると、傾聴することがとても多いんですが、ほぼ 9 割がたは不平不満です。それも 2 人として同じ不平不満ではなく、吐き出すことによって、その方が 1 時間後には表情が随分変わってくるんですね。傾聴できる人材を育てるとするのが大事だと思います。

傾聴できる方を育てるには、ご本人が幸せではないと人の不平不満というのは耳に入ってこないし、聞いている側が意見をすごく言うようになるので、悩んでる方を救うということもですが、今いる健全な方たちをもっと育てて欲しいなあということ、民生委員として声を上げていきたいと思っています。

【委員】

今日、話を聞いてまして、1 つ思い出したことがあるんです。3 年くらい前のなわて高齢者大学の話なんですけど、ポスターをじっと見てはるお母さんがおられたんですね。どうしたんですかと聞いたら、「これまだいけますか」と。

実は重度の身体障がいに関わった娘さんを 10 年間ずっと介護している。それは公的な支援を受けながらの介護なんですけど、もう煮詰まっています。十何回のこの講座を受けるということで、何か自分の中で得たいものが見つかるかも知れない」と言って来られた。

ただ、その娘さんを見てもらう介護士さんが来て、来たから出てきて、ほんでその人が帰るまでに帰らなアカンから、入って来るの 15 分遅れて、出て行くの 15 分早く出ていくから他の人と交流できない。

これものすごく残念やったんですけども、その人は今はもう 1 週間に 2 回か 3 回来てはるんですけど。だからそういうお世話してる人のケアっていうのも、これやっぱり交流を持つ。

以前、包括にいた方が、認知症の人を介護してる人や周りの人のためのカフェみたいなものを作って、僕もちょっと覗かせてもらったことがあるんです。

そういう中でやってる人同士のつながりみたいなもので、広げていくというのも

1つの大きなファクターになるんじゃないかなと思います。

それからもう1つ。僕は、地区のサロンみたいなものがどこかで行き詰まってるんじゃないかなと思うんです。一昨日、森ノ宮にあります「ほとりで」という、公立大学のボランティアセンターが運営してるスペースで行われた、大阪ええじゃないかプロジェクトというのがあって、そこで森之宮団地の寺子屋を10年やってはる方が来はって、昨年の大阪府の福祉大賞か、何か受けたと言ってはりました。この考え方が、元々はサロンみたいなことで始めたんですが、放課後学習に力を入れている。どうしてもサロンでやったら体を動かすことが中心になってしまうんだけど、それやと男性の楽しみが少ない。それだけに男性が行ったりすることは少ないけど、放課後に魅力的なプログラムを作ったら良いという考えなんです。

地区サロンには、男性の参加を促すということに繋がっていくんじゃないかなと思うんですね。

枚方にある、「わたしの家 大学」という介護施設。今度、高齢者大学で見学に行くんですけど、ここはなぜそういう名前をつけたかという、今までいろんなデイケアに行っていた人に対して、大学という意識で入ってもら。だから単位を取ってもらう。みんなでやることもあるけど、60のカリキュラムがあり、いろんなことを経験しながら単位が取れる。これによって男性が先生にもなります。だから、ものすごく生き生きしてるというのを、昔、保健センター健康づくりグループ連絡会で見学に行ったこともあるんですよ。あれからもっと発展してるようで、今年の見学は楽しみにしております。

【委員】

つながりって難しいなと感じています。地区の方とお話をする中で、地区の皆さんの中でも、どうやったらつながりができるのか、苦慮されてる声をよく聞きますし、仕事をする側でも、情報発信は難しいと思う。

ただチラシとかポスターとか、世代によってどの媒体が一番よく届くかというのは、それぞれの世代よりも個人の問題が大きいと思うんですけど。

紙媒体の方が好きとか、SNSの方が好きとかもあるのかなと思って、作る側としては、情報発信の見せ方とか伝え方というところかと思います。文字とか分量が多かったら、なかなかそれを見ようという気はならないし、どう伝わるのかというところは、常に工夫なのかなと思います。

後は、すでにできている輪の中、繋がってしまってる輪の中には新しい方が入って行きにくい状況が、ボランティアの場面でも地域でもいろんなところが生じているのかなと。じゃあそういう方がどう繋がっていくのかなという。それこそ普段から付き合い、地域の中でも挨拶から始めるようなところなのかなと。雑談の中からいろんな会話が生まれてくると思うので、そういったことを気にかける人、なかなかそれができず、ご自身から話さないはもちろんいるのでそういう方にはお話をしていく声をかけるというような、日常的な会話の中からすべてが生まれていく、つながっていくとことなのかなと。

相談も、相談のできる方は窓口に行ける、電話ができる、話せると思うのですが、そうじゃない方にどうアプローチしていくかとなると、会話の中でそういう方がいるのではなかろうかと情報にアンテナを立てていくところだと思います。

地域の皆さんの声は地域に行かないと聞こえないと思うので、地域でいろんな活動をされている皆さんの中に入って行って、聞くこと知ることから始まっていくの

かなと、常に心掛けていくのは大事かなと思っています。

【委員】

地域住民ができること。どちらかというと住民というか、事業者としてできることを主に考えてきました。

皆さんと同じになるんですけれども、情報発信というところで SNS とかやって広報活動をしていかなあかんと思ってます。事業者としても行政としてもやっていかなければと。ただおっしゃたように流れて行くので、ちょっとした仕掛けは必要かと思います。

各自治体の取り組みを知る機会というのは、情報を知る気になってると取れるんだけど、そうじゃないとなかなか取れないというところでは難しいという気はします。

顔の見える関係づくりも、やっぱり挨拶運動だとか大事な。四條畷市はコミュニティスクールをやっておられるかちょっと分らないですが、学校単位でやっていると、何年か後に、あのときに挨拶していたおっちゃんやね、みたいな感じになるので、先々に繋がっていくというところでやっていったらいいかなと思います。事業所が山の上過ぎていないんですけれども、学校の近くとか、機会があれば一緒にできたら面白いと思いました。

避難訓練とかしておられると思いますが、例えば消防団とぱっと聞かれて分かる人って本当にいるのかなと思ったら、そんな団体あるんかみたいな反応が多い。そういったところを知る機会というのあればいいかな。

具体的な支援では、例えば、多分障がい施設やったらとりあえず分からんけど電話したらいいかという一報が来たときに、事務所だとソーシャルワーク的なことができますが、日曜日だったら現場職員が対応するので、「分かりません。役所に電話してください」という対応で終わってしまうと思います。事業所単位の学習の場でどういった対応をしていくかは考えないといけない。行政に対してはつながりづくりの場とか、例えば僕は社協さんに関わることが多くて、高齢の施設の方、児童の方と知り合う機会がありましたけど、小さい団体さんであるとそういった機会もないし、そんな場を作っておられるかということと人手が足りないというところでは、全体的に見直さなければならぬと思いました。

つながりを支える人材の確保・育成では、うちの人材の確保というところになっちゃったんですけれども。就職フェアを市などがしてくださって、それに乗っかるのが良いかなと思います。新卒の方が奨学金を借りると、卒業した瞬間に借金を抱えて仕事することになります。その奨学金を例えば四條畷市で就職したら、ちょっと免除しますよとか補助しますよとか、そういった若い人を呼び込むようなことを行政で考えていただけたらなあ。ボランティアも、純粋な気持ちでボランティアされる方もおられるんですけど、なかなかそういった方もおられないので、知ってもらうことが一番大事かなと。例えば中学生とか高校生とか、学校に進学する際にボランティアなどの社会活動をしたら、ポイントが上がりますよ的なものがあるので、それを前面に出してよこしまな気持ちでも、まずは知ってもらうことが大切。

知らないということが、怖いとかの偏見に繋がるんじゃないかと思ってますが、それは事業者としても、行政としても、知るという機会が定期的に小さいときからあればいいかな。例えば小学校から見学していいですかと言われたら、全然ウエルカムという取り組みができたらいいかなと思ってます。

【副部会長】

地域住民ができることと言いましたら、イベント等へ積極的に参加いただく、最近はちょっと自治会活動も敬遠されがちなんですが、積極的に参加いただければ自治体の活動も分かっていただけだと思います。

イベントを通して若い人たちにも協力いただいています。ボランティアの協力を通じて、民生委員の活動に参加いただけたので、日頃から地域での活動を気にかけてボランティアの協力依頼をするようにしております。

顔の見える関係づくりですが、居場所づくりをしておりますけども、なかなか来ていただけない。

最近、住民が中心になってラジオ体操をしておりますが、他地区の方も来ていただけるように掲示板等でお知らせしており、他地区の男性の方も参加していただいております。そういう方向でいろいろ発信していきたいと思っております。

複合課題は各世代を通して共有しないといけないですが、支援世帯とかひきこもりの方とか、地域福祉関係に携わる民生委員はある程度把握できておりますが、ひきこもりの方とかは家族が発信されないのが把握できないのが現状です。支援しないといけない、支えないといけない方の世帯が掴めないのが一番のネックだと思っております。

つながりを支える人材確保では、先ほど言いましたように、各世代に協力依頼して、子育て中のお母さん保護者育成会さんも協力していただいております。校区の小学校にもイベント等、フェスとかで地域住民が協力しております。ですのでお祭りとか、子ども夏まつりとかに学校から先生が来ていただいております。私は岡部小なんですが、地域との接点が多くて、皆さんの顔が見えておりますので、それは今後も続けていけたらいいなと思っております。

【部会長】

ありがとうございました。

私は少し視点が違うんですけど、社会福祉法の改正が6月中頃に成立しまして、その目玉事業が、身寄りのない高齢者への支援制度というものなんですね。これを社会福祉法の中でやるということです。四條畷市でどう作っていくのかに大きく影響するかと思います。

情報とか頼るところが全くない高齢者などがいたらどうなるんやということが今問題となっていて、これを何とかクリアしていこうということです。この計画の目玉事業になっていくかと思います。

いわゆる、身寄りもないお金もない、死んでしまったら誰も面倒を見る必要がない、そこまでいっても何も情報が入らない。サポートが全くできてなかった一番極端な方。死なれたら納骨もどうするなども含めて、例がなかったわけですね。金銭管理の問題であるとか、入院とか入所の手続きだったり、葬儀や納骨の契約手続きとか死後の事務だったり、今まで誰もできなかったわけですね。

そういう方をどのようにしていくのかということで、成年後見制度の改正も含めて今度の社会福祉法等の改正の目玉として位置付けてられています。それを四條畷市としてどのように計画に盛り込んでいくかは、我々の大事な仕事になると思います。

【委員】

今、部会長からお話いただいた内容ですが、現在、民生委員が各地域の皆さんの個票を作らせていただいている、身寄りのない方たちは四條畷市の民生委員はほぼ把握しているはずなんです。

そして私も少し前にありましたが、身寄りのない方が亡くなるまでの対応は民生委員の方がほぼしていると思います。

そして亡くなった瞬間からは、行政の方で対応するという区切りもきちんとできていて、そのようなことはこれまで私も数人対応しているので、システムという形にはなっていないと思うんですけども、ほぼ民生委員の方がしているはずなんです。

なので個別の案件なので中身は違いますが、ご本人と相談させていただいて、後見人制度を選ぶ方もいらっしゃる、民生の方で委任状をとって財産管理をする場合もあります。亡くなった瞬間から相続が発生するということは伺っていますので、そこからは行政の方が対応してくれるということを多分他の民生委員の皆さんも経験していると思うので、四條畷市としては、それは表になってるかわかりませんが、そういう組織はできていると思います。

【副部会長】

民生委員として把握できてる方は住民登録している方なので、されてない方が結構いらっしゃる、その辺が多分、小寺先生がおっしゃったような人なんだと思います。

役所からもらうのは、住民登録しておられる方なので、私も前に民生委員しているときの名簿は、それ以外の方が漏れて、住んでおられるけど住民登録していない方とかあやふやな方が結構いらっしゃいました。そういう方も多分四條畷市におられますので、今言われたようにサポートする必要があると思います。

【部会長】

そういう意味では、個票を作ったりとか進んでと思うんですけども、それだけでは漏れる方がいっぱいいるから、納骨する時にどうしたらええんやとか、そういう話もありますしね。

これから徐々に体制ができてくるから、計画の中にも盛り込んでいくことが大事だと思いますのでよろしくお願いします。

他、何かございませんでしょうか。

【委員】

四條畷市社協で事務局をしている地域貢献委員会というものがあまして、大阪府の社協からそこを計画に入れて欲しいと言われています。四條畷市内の高齢とか子どもとか障がいの施設が一緒になって何かをやろうとしていて、私も属しています。

大阪府社協は、もともと大阪は施設が相談を受けたり相談会をしたりする土台があるとおっしゃっていて、大阪モデルの共生社会というのは、その社会福祉施設が入っていくというか、そういうものを作っていきたいという意向があるみたいで、そういうのを計画に盛り込んで欲しいという要望です。

【事務局】

入れるのは全然いいと思うんですけど、具体的にどういう、例えば相談を施設で

も受けていきますよとか、何か方向性を盛り込めたらいいかなあとは思いますがけれども。むしろ入れられたら嬉しいです。

【部会長】

いろんな事業をやっているということで、去年まで枚方の社協がモデルで事業をやっている、それを今年度から大阪府に戻して社協の方に移すという段取りで動いていると思うんですけども、情報として入ってますよね。

【事務局】

身寄りのない高齢者の話ですか。

【部会長】

いや、じゃなくて、しあわせネットワーク

【事務局】

大阪しあわせネットワークの話ですか。

【部会長】

それから社会福祉協議会を中心にしてということで、府社協の方からの社協におろそうとしている事業なんですけど、その辺は聞いてますか。

【事務局】

元々重層が始まったときに、大阪モデルは、各施設さん社会施設さんと社協がネットワークを組んでいくということで始まって、市によっていろんな整備の仕方があるので、四條畷で言えば地域貢献委員会があるのももちろん知ってますし、連携はしていきたいところですが、どちらかというと地域貢献委員会は地域貢献委員会、市は市でやっているのが実際かと思います。委員からも提案があったので、今すぐ相談を各所でしますとかまでは合意形成が多分取れないと思うので、もう少し社会福祉施設と連携して、お互いが OK となったら書けるかと思います。書いた限りはじゃあ次どうするとなるので、そういうところをもう少し詰めていけたらいいかなと思っています。

【部会長】

どちらにしても地域の中で有効なネットワークが必要ですね。

【事務局】

そうですね。例えば住んでるところが更生園さんの近くだったとして、車も乗れないし役所まで行けないとなったときに、近いところに相談していいとなったらすごく便利だと思います。ただ、そこで全部受けるのは難しいと思うので、まずしっかり聞いてつないでもらって、そのままうまく支援に繋がるということがあればいいなと思っています。

【部会長】

いろいろ宿題がいっぱいあるんだけど。

【事務局】

ちょっとどうまとめようかなと。

【部会長】

他に何かご意見ございませんでしょうか。

皆様方から貴重なご意見いただきましてありがとうございました。

事務局で詳細を精査してもらって、計画の中間見直しにどのように盛り込めるかを検討していただきたいと思います。結果につきましては時間の都合もありますので、私と事務局に一任させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【委員長】

ありがとうございます。

それでは次の議題の「その他」に移りたいと思います。全体を通して何かご質問ございませんでしょうか。

【委員】

自殺対策でデータが出てるんですけども、数値目標っていうのがあって、5とか3とか書いてあるんですけど、これはゼロじゃないかということがあるんですよ。1人減ったからやった一ではなくて、もともと0人。そんなところで一喜一憂じゃなく、0を目指すんだと。支援というのはあるかも知れませんが、僕はちょっと嫌悪感というかどうなんだと思ったので、そこは変更というか。四條畷の自殺者の数が8、3、6、4、10と増えてるというのはもちろんよくないし、社会が環境を変えるとか大事ですし。

【部会長】

はい。ありがとうございます。

ちょっと検討よろしく。

【事務局】

今、書かれてるのは実際の数。これは目標ではなくて実際の数ですね。ゼロになるところを目指すということですね。

【委員】

51ページの一番下の山手のお住まいの高齢者の方がというところの坂道を上るのが「ずごく」になっております。

【事務局】

ありがとうございます。今日お配りした資料のページ数が50何ページとなっているのが何故かと思われていると思いますが、今度、福祉計画検討委員会に出すときに、皆様のご意見を盛り込んで出させてもらいたいと思い、このページ数になっています。

部会長と相談のうえ、福祉計画検討委員会にこちらも盛り込んだ素案という形で出させていただければと思ってます。

今いただいた意見はできるだけ盛り込むよう頑張ります。

【委員長】

福祉計画検討委員会はいつですか。

【事務局】

8月20日にまず素案として検討いただいて、その後10月9日に地域福祉計画策定専門部会で検討いただいてまたご意見をいただきます。

11月にもう一度福祉計画検討委員会を開き、そこで案としまして12月にパブリックコメントを募集します。パブリックコメントでいただいた意見を、この専門部会で検討し、そこからまた福祉計画検討委員会でご検討いただいた後に、最終は市長決裁をとり確定という経過をたどる予定です。

【委員長】

そうしましたら、議題5その他はありますか。よろしいですか。事務局から何かありますか。予定はかなりきっちり言うてくれはったからね。

【事務局】

本日は皆様活発なご審議いただきましてどうもありがとうございました。

たくさんのご意見いただきまして、本当にありがたく思っております。

いただいたご意見もとに、今回の中間見直し案にどういった形で盛り込めるかどうかは今後検討して参りたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

改めてになりますが、次回の開催日程、ご案内をさせていただきたいと思えます。10月9日金曜日、10時から場所は四條畷市役所201会議室を予定しております。

日程近くなりましたら、皆様にご案内をお送りさせていただきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局から以上でございます。

本日はありがとうございました。